

# 第七十四回

瀬戸市文芸発表会

短歌部門 特選・入選作品

【大塚 寅彦 先生選】

## 『一般の部 特選』

青函の連絡船によみがえる銅鑼の響きの真夜中の空  
 玄関の前に置き配された荷は仔犬のよう不安げな顔  
 登り窓火入れの人の息はずみ火炎たつ中陶の生れゆく

## 『一般の部 入選』

一面の分厚い雲の落とし蓋されたるような梅雨の一日  
 無人駅ベンチに蟻の休みたる通過列車の音にもぶれず  
 安心と不安がずっとつきまとう防犯カメラ必須の世界  
 台風は去り暮れかたの熟れすぎたゴーヤの種のいろの西空  
 暗闇に防空壕へ逃げ込んだ今なほ嫌ふ夜の飛行音  
 来ぬ君をまだ待ちてをり珈琲にかなしみだけが沈殿してゆく  
 生きていていいかとみゆきに尋ねられ昔のCD押入れを捜す  
 おぼろ夜の空と海とを二分けに土佐湾沖の弧線の白し  
 おかげりとトンボや蝶もこの庭が実家なのかも子の帰省待つ  
 雨を吸い大きくなつた梅の実のその一途さに触れる手仕事  
 君くれし青きいちじく手のひらにのせればふわりと夏香りくる  
 幸せは名もなき日々に詰まりけり狭霧晴れゆく朝の光に  
 既読無視だけのLINEのやりとりでいいのあなたの生存確認

岐阜県各務原市  
 埼玉県さいたま市  
 濑戸市平町

岐阜屋根の草  
 関根 一雄  
 水谷 美智代

滋賀県長浜市  
 名古屋市中川区  
 大阪府高槻市  
 和歌山県新宮市  
 濑戸市陶原町  
 群馬県前橋市  
 名古屋市緑区  
 高知県須崎市  
 濑戸市品野町  
 広島県広島市  
 名古屋市中川区  
 静岡県浜松市  
 山梨県中央市

一刀両断 位田 仁美  
 打浪 級一 小野小乃々  
 加藤 和子 木下 美樹枝  
 谷 幹雄 德永 逸夫  
 平戸 とも子 藤井 まどか  
 水野 芳 山影 敏康  
 ルーキー

『小中学生の部 特選』

壯観な景色の中にひとりきりまるで世界と逸れたみたい  
起きた朝誰もいなくて風の音昨日の笑いがどこかで響く  
時計見て視界に入る男の子まだ好きだとは言えない自分

『小中学生の部』  
入選

自習室今日も同じ席座るたび志望校までの地図見えてくる  
梅雨明けて暑さ到来晴れ渡る積雲浮かびああ夏が来た  
ペダルこぎ風にボニーの尾がゆれる我の行く道皆乙女坂  
麦茶から夏のにおいがこぼれだす昼の縁側風がとおつてく  
通天閣見渡す景色迷路だな大阪の街ずっと広がる

夏の空龍の巣がね浮いているあの雲の中に眼差しを向ける  
反抗期親に怒られ腹たつが勇気出なくて隠れて反抗  
声合わせ夢中で漕いだカッターは光り輝く夏の思い出  
ダツダツダ記録更新三メートル笑顔こぼれた走り幅跳び  
トワリングきれいな海の目の前でぐるぐる回し響く歓声  
上高地一人で散歩紅色の霧のかかつた穂高連峰

上高地綺麗なところは山があり猿の親子が愛おしくなる  
帰り道笑い転げてふと気づくこんな時間もいつか思い出  
直すべき人が蝕むこの未来世を見て思うは地球の陰り  
就寝後静けさの中七並べ胸の内では真剣勝負  
上高地さるのにお尻はピンク色逃げる姿はうつくしきもの

聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年

宇佐美 愛夏  
小野田 祐花  
鈴木 雅乃

幡山中学校三年  
幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
幡山中学校二年  
関市立桜ヶ丘中学校二年

幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
品野中学校二年  
品野中学校二年  
品野中学校二年  
聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年  
幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年

夏休み猫とお昼寝のんびりとゆつくりしてもいいんじゃない

さわさわとやさしく触れる風が木に囁いているかもしれないね  
かき氷シロップ混ぜて紫だいで食べると頭が痛い

友達と笑い転げたり遊んだり当たり前でない最高の至福

これからは俺らの時代はじまりだコーナーからのスリーポイント

海へ出てシーカヤックで二度見するとも綺麗なサカナやクラゲ

帰り道二人おしゃべり超ハッピーはじめて思う時間よとまれ

友達と笑つて過ごす夏の夜星も一緒に語り合う夢

蒸し暑いセミの声なく今は夏これがほんとの虫熱い夏

宿題の邪魔をされたり噛まれたりそれでも可愛いうちの猫

バレーとはチームみんなで戦つてボールを落とさず繋ぐ球技だ

暑い日にソーダの泡が弾ける音心ときめかせる夏の魔法

眩しすぎる太陽の下打つサーブ昨日の自分超えて見せたい

夏の夜上がりよ上がり高くなるまで口を揃えてたまやーと

となりから眠い?と聞かれうなずいた本当はまだ話したかった

空の下立派に伸びる向日葵と背比べをした昔の私

粉薬と錠剤三つ喉通り僕の一日終わつていつた

幡山中学校二年

聖霊中学校二年

幡山中学校二年

聖霊中学校二年

品野中学校二年

聖霊中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

幡山中学校二年

光義務教育学校附属

山口大学教育学部附属

横道 玄

小林 愛莉  
近藤 佳奈美  
坂井 へナン

坂倉 菜々夏  
篠原 惟吹

関 泉

立松 愛梨

中井 環希

中尾 翔太

長瀧 美羽

伴野 七美

名古谷 潤実

深見 奏太

船橋 星生

松尾 優那

松岡 結羽

『一般の部』  
青函の連絡船によみがえる銅鑼の響きの真夜中の空

四十年くらい前の動画で出航時の銅鑼や船内放送を聞くことが出来る。昭和の終わりと共に連絡船としての運航は終了した。銅鑼を聴きながら見た海峡の真夜中の空に何をか思つた若き日の回想だろうか。

玄関の前に置き配された荷は仔犬のようになんげな顔

荷物の受け取りに「置き配」を活用することが増えて来た。盗難の心配が少ない日本の住宅事情もある。しかし「仔犬」のように荷物は少し心細げでもある。

登り窯火入れの人の息はすみ火炎たつ中陶の生れゆく

窯の火入れというものの難しさみたいなことは判らないが「息はすみ」という三句で察し得るところもある。「火を入れ「火炎」立つという展開で結句につながつてゆく構成が巧みである。

「一面の」の歌。雲を料理に使う「落とし蓋」に喻えて捉え方がユニークだ。結句の体言止めも一首が蓋された感があり効果的。

「無人駅」の一首。無人駅が題材になることは結構あるのだが、ベンチの「蟻」に着目して二句目以降描写となつてるのは珍しい部類だろう。「蟻臺上に飢ゑて月高し」という横光利一の俳句を想起させる一首である。

『小中学生の部』

「壯觀な」の歌。壮大な自然に放り込まれた時の「世界と逸れたみたい」という把握が抜きん出でている。AIを使って作つているとそんな捉え方は出て来ないだろう（たぶん）と思うのである。

「起きた朝」の歌。誰もいない家に目覚めると風の音が。一瞬過去か未来に飛ばされたような不思議さが下句で出た。

「時計見て」の歌。壁の時計を見るたびに彼が視界に入る、それがまた恋心を募らせ嬉しくもある。乙女心や良し。

【近田 順子 先生選】

『一般の部 特選』

きつちりと N O を言うからしっかりと Y E S が届く誠が届く  
何度も祈りのよう花は咲くあの日につづく八月の空  
君だけに私の秘密教えるねスイカの種を胃で育てる

『一般の部 入選』

足し算は難しいからしないけどいつか何かになるはずだから  
藤井七冠のタイトル七つ言えるから認知機能は二重丸とす

一面の分厚い雲の落とし蓋されたるような梅雨の一日

政策のミスは続くよどこまでも値上げラッショと給料ダウン  
各駅で文庫本読む夏の日にドラマはあるか瀬戸電ルート

帆のごとく蝶の屍運ぶ蟻寄り道もせず一心不乱

八十五才唯それだけの誕生日白き花活け茶の間に飾る

ときめきが目減りしていく古い日の日々喜怒哀楽がのつべらぼうに

この朝の喜びとしてふくらかな茗荷をひとつ庭隅に摘む

打ち止めの大き花火か山一つ越えて峠に今とどろけり

瀬戸川の川辺旗揺れ陶器市下げた袋もぶらりぶらぶら

日盛りのスイカを三個連れ帰る焼けつく記憶なかつたろうか

長らえ生きる意味さえ曖昧に 100 歳超えし祖母の呟き

大阪府大阪市

宮崎県日向市

東京都練馬区

神洲橋

佐々木 泰三

山本 沙羅

東京都渋谷区

瀬戸市上品野町

滋賀県長浜市

兵庫県伊丹市

愛知県一宮市

埼玉県久喜市

瀬戸市品野町

佐賀県唐津市

埼玉県本庄市

高知県須崎市

埼玉県春日部市

広島県広島市

岐阜県加茂郡八百津町

芦田 晋作  
安藤 なみ

一刀両断

噂野アンドウー

大江 豊

岡田 孝道

掛樋 嗣征

吉賀 由美子

白藤 巳玲

徳永 逸夫

中野 泊雲

藤井 恵美子

やなや

『小中学生の部 特選』

壮観な景色の中にひとりきりまるで世界と逸れたみたい  
親は言う家計が大変物価高何も変わらぬ私の物欲  
ごめんねがなかなかいえずそらをみたほんとはすぐにい

『小中学生の部』  
入選

定期試験点数悪く母のお怒り毎回のこともう慣れてきた  
夏祭り打ち上げ花火皆同じ空を見ているつながつて  
静けさに鉛筆の音響く部屋汗と不安がノートをぬらす  
体育祭クラスで団結協力し年に一度の楽しみだよ

林間学校風に吹かれてぐらぐらと揺られて渡る河童橋  
銀の星掴む手のひら推しの声このまま時が止まればいいのに  
日傘さしあの道歩き思い出す去年の夏の素敵な記憶  
風鈴がちいさく鳴つてふと気づくぼくの時間も夏をすぎてく  
学校は楽しいことや悲しいこと喜怒哀楽が沢山ある

朝起きて色々用意し鏡見る毎朝ため息止まらないです  
悲しいな彼女がいないどうしてだこんなに俺はイケメンなのに  
宿の夜夜遅くまで友達と不安の中で語り合ったね  
休み時間友達とする推しのこと盛り上がりすぎて気絶しちゃうよ  
前日に一夜漬けするテスト前結果ボロボロ説教確定  
天の川流れる星が落ちてくる願いを言えず次を待つ君  
友達の温かい手繋いだら私の回路動き出す

聖靈中学校二年  
品野中学校二年  
幡山中学校二年

宇佐美 愛夏  
岡田 彩  
矢野 叶

間 青山 阿部 青山 間  
S 今泉 射場 稲葉 伊藤 石原 家高 飯野 新井 新井 阿部 青山 間  
キラ來  
穗乃佳 乙鶴 璃乃 彩衣 勝哉 琴未 陽花 由裕花 美琴 咲花 結菜  
ももこ

帰り道笑い転げてふと気づくこんな時間もいつか思い出  
弟と手を引き向かう夏祭りドカンとのぼる打ち上げ花火  
告白し返事を待つて2年間わかつていても悲しい恋愛  
学園バス「隣いいですか」震え声新品の制服春の始まり  
合奏時かげで響くチューバの音やつと吹けたこの三連符  
ふと見るとイケメンすぎてキュンしますだけど相手は見  
帰り道笑つて帰る友達と宝みたいな大切な日々  
悔しいと思う数ほど伸び代に気を取り直しまだ次だ次  
点呼後に恋バナし合う私たち深夜の中の刹那な時間  
一番の女子の溜まり場女子トイレ加入条件手鏡とくし  
公園で小さな子供遊んでる赤い風船空へ飛び立つ  
消灯後教師の監視怯えつつするは恋バナ上高地の夜  
大嫌い国語数学理科英語社会はとても大好きです  
母は家事妹ひるね父仕事それが私の日常茶飯  
夏休み今年も残る感想文いざラスボスと決戦の時  
夏の日の暑い部室で友達と盛り上がる話青春は今

聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年  
品野中学校二年  
聖靈中学校二年  
聖靈中学校二年

幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
幡山中学校二年  
聖靈中学校二年  
幡山中学校二年  
聖靈中学校二年

小野田 勝山 心愛  
祐花 近藤 北浦  
近藤 陽飛 杏奈  
ひより 沢田 鈴木  
望花 高橋 成田  
菜七子 希睦 遥夏  
杏奈 そら 柚希  
遥夏 林 杏夏里  
希睦 成田 遥夏  
菜七子 高橋 希睦  
望花 鈴木 成田  
祐花 近藤 北浦  
北浦 勝山 心愛  
小野田 ひより

『一般の部』

きつちりと N O を言うからしっかりと Y E S が届く誠が届く

お互いに正直な思いを言い合う事により、本当の信頼感が育つのだ。結句の「Y E S が届く誠が届く」の畳みかけるようなりズムに作者の確固たる思い、喜びが表れている。

何度でも祈りのよう花は咲くあの日につづく八月の空

今年は戦後八十年。其々が感慨深い年だ。上句も下句も作者の思いが美しく表現されている。一首全体が深い祈りに満ちている。

君だけに私の秘密教えるねスイカの種を胃で育ててる

発想が卓抜だ。あるはずの無い事だが、そんな大事なことを教えるのは恋人だろうか。口語表現がぴったりで一首の切れ味が良い。

入選作品

「足し算は」の歌。プラスは難しいが、下句の仄かな希望が今の時代をも思わせる。

「政策」の歌。この物価高に皆苦労している。それをかつて流行った歌のフレーズを使って軽く去なしているセンスが良い。

『中小学生の部』

壮観な景色の中にひとりきりまるで世界と逸れたみたい美しい自然の中に自分一人の存在が呑み込まれる程の一体感だったのか。「逸れたみたい」が没入感を感じさせて、秀逸。

親は言う家計が大変物価高何も変わらぬ私の物欲

止まらぬ物価高に親は苦労しているが「親の心子知らず」の通りで子供は深刻には受け取れない。物欲はエネルギーでもあり若さだ。

ごめんねがなかなかいえずそらをみたほんとはすぐにいたかつたよ

全てひらがな表記。素直な思いを言うには柔らかなひらがなが合っている。それともより、素の自分を表したかったのか。この表記にも表現にもなかなかのセンスを感じる。